

令和2年度 第2回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の結果について

令和2年11月26日（木）に開催しました、公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和2年11月26日（木） 14時から16時
- 2 開催場所 佐賀市役所 大財別館 4階 4-3会議室
- 3 出席者
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会：5名
委員長：高島忠平
委員：石丸義弘、重松恵梨子、富吉賢太郎、平尾洋美
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団：5名
 - ・事務局：4名
- 4 議 題 令和2年度上半期 実績評価について
 - (1) 自己評価
 - (2) 質疑応答
 - (3) 採点
 - (4) 集計
 - (5) 総合評価・意見交換
- 5 会議の公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0名
- 7 議事録（概要）

(1) 自己評価 (文化振興財団)

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 R2年度上半期実績

◎判定の基準
 【A】 高い成果を収めている 【B】 概ね良好な成果を収めている 【C】 向上の余地がある。【D】 見直しが必要である 【E】 抜本的な見直しが必要である

評価項目	評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1) 施設管理に関すること			
① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P18,19,24~26	A	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。
② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1~7		利用者数・稼働率ともに新型コロナの影響により目標には及ばなかった。催物の中止が、上半期で文化会館は281件、東与賀文化ホールは42件であったが、文化会館43件・東与賀文化ホール7件の日程変更をすることで利用者数・稼働率の減少を少しでも抑えることができた。
③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P22		ホームページ、フェイスブック、広報誌「新風」、タウン誌により感染症対策ガイドラインの周知を行った。中止や延期となったイベントの情報発信も行った。
2) 文化事業に関すること			
④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P8~14	A	新型コロナの影響により、文化会館でワークショップ1本、アウトリーチ4本の延期、主催事業6本の中止、3本の延期、東与賀文化ホールでワークショップ1本、主催3本の延期もあり目標に及ばなかった。新型コロナ対策を万全にして9月に1公演実施した。また、下半期に向けて延期した事業などの開催準備を行った。
⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8~14		東与賀文化ホールで、幼稚園と高校の芸術科にアウトリーチを実施した。文化会館では、後期に今まで行ったことのない中央児童センターや東与賀児童館へのアウトリーチの準備を行った。
⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P8~14		文化会館ではワークショップを2企画、東与賀文化ホールではアウトリーチを2カ所計3回実施して好評を得た。
⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P8~14		文化会館のワークショップでは地元オーケストラメンバーを起用して親子の楽器体験などを実施し、音楽の楽しさを味わってもらった。東与賀文化ホールでは新しい企画として、幼稚園児に音楽をつけて絵本の読み聞かせを実施し、子どもたちがピアノ演奏に聴き入った。また、高校の音楽専攻の生徒に対してアウトリーチを実施し、プロのピアニストから直接技術指導を受ける機会を提供した。
3) 財務に関すること			
⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P17,20,21	A	オフィシャルパートナー企業は昨年と同じ11社。(一財)地域創造の助成による公共ホール音楽活性化事業(公演とアクティビティ)を実施した。コロナの影響による利用料金減少に対して、中小企業庁持続化給付金の受給した。また、文化庁の文化施設の感染症予防対策事業補助金が交付予定である。
⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P1,10~16		新型コロナの影響で、文化事業収入・利用料金ともに目標に達していないが、延期や広い会場に変更することで中止にせず入場者数、稼働率を少しでも抑えることができた。
⑩ 経費の削減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P17~19		新型コロナの影響で、催物がなくなった分、常駐の委託費をそれぞれの実情に合わせて減額したり保守点検の削減をして経費の節減に努めた。また、空調管理による省エネに努めた。
前回の委員会「R2年度の課題」		課題への対応状況	
①新型コロナウィルス感染症対策と新たな生活様式における文化芸術・運営の在り方検討 ②クラシック、落語、ポップスなど分野は違っても文化を求めている人は多数いる。何もしないのではなくその方たちをつなぎとめるためにアウトリーチ事業を充実させるなど工夫していくことが大切かと思ふ。 ③国・県・市の助成事業の活用 ④文化・芸術活動に関する「提案者・提案業務」としての面を強化していく必要があるのではないかと。単に誘致と貸館をするより「提案できる財団」として独自性・有価値性を高めていく方向を検討する時期ではないか。 ⑤文化会館という発表の場としての機能、そして文化創造の場としての視点から本来芸術文化の機能を考える必要がありそうだと。 ⑥共催事業以外のクラシック公演等の収益性の向上。 ⑦正味財産300万円の死守(通期目標として)		①ガイドラインを施設ごとに作成し、ソーシャルディスタンスの確保を行った。 ②東与賀文化ホールでは幼稚園と高校音楽専攻科へピアニストのアウトリーチを行い、生の演奏に触れる機会を提供した。 ③(一財)地域創造の支援を受けて東与賀文化ホールは公演とアウトリーチを実施した。財団としてコロナによる利用料金減少に対して中小企業庁持続化給付金の受給した。また文化庁文化施設の感染症防止対策事業補助金が交付予定である。 ④佐賀市の文化芸術活動支援事業を通じて、これまで利用の無かった学校に文化祭をホールで実施してもらい、学習の一環として取り組みたいという学校側の意向である観劇のマナーやコロナ対策等のアドバイスを行った。 ⑤コロナ禍のなかで、会館として場の提供だけでなく何ができるのか今後検討していきたい。 ⑥入場料金を低く設定し、市民の関心を高め、販売数増につなげる。 ⑦経費の削減と利用料金収入減少分の補てんを佐賀市へ依頼している。	
R2年度上半期に高い実績を収めた事項		R2年度下半期に向けた課題	
・今後の利用、来館につなげる取り組みとして、自主事業のチケット払戻し、貸館の緊急事態宣言(4/16)までの申請者に対し、利用料金の全額還付をした。(79件・338万円) ・文化事業は、できるだけ「中止」ではなく、「延期」で開催するように努力した。 ・前回意見のあった文化会館へのメッセージを募集し、11件の応募があり新風・HPに掲載した。 ・人材バンクのPRを行い、登録アーティストが2名増えた。コロナ禍のなかでのアウトリーチに活用する予定。		・2024国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀文化ホールの文化事業の実施数の目標達成。 ・文化事業収入の増加。 ・動画配信での公演実施。	

【佐賀市文化振興財団による自己評価の説明】

1) 施設管理に関すること

- ・4月16日に全国に緊急事態宣言が出され、4月22日から5月10日まで休館した。
- ・4月から9月の上半期では、文化会館は中止281件、日程変更43件、利用料金が約3,730万円の減、入場者数が約111,500人の減、東与賀文化ホールは、中止42件、日程変更が7件、利用料金が約260万円、入場者数が約9,800人の減となった。
- ・文化会館の利用者数は、23,142人で、前年度に比べ183,589人減少し、目標の420,000人の5.51%、稼働率は目標の75%に対し、25.36%。東与賀文化ホールの利用者数は、2,947人で、前年度に比べ25,994人減少し、目標の34,000人の8.67%、稼働率は目標の61.3%に対し、19.62%。新型コロナウイルス感染症の影響で、催し物がほとんど中止や日程変更になったことによる。
- ・保守点検や修繕等は確実に実施し安全確保に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、施設ごとのガイドラインを策定した。ホールの催しでは、サーマルカメラを設置し、消毒の徹底、来場者の緊急連絡先の記入、館内のソーシャルディスタンスの表示をし、換気を徹底した。
- ・情報提供は、HP・FB・新風・MOTEMOTE さがにより、感染症対策のガイドラインの周知や中止・延期になったイベントの情報発信を行った。

2) 文化事業に関すること

- ・文化会館の文化事業はワークショップを2企画実施し入場者数は103人。新型コロナウイルス感染症の影響で主催事業は6企画中止し2企画延期、ワークショップは1企画延期、アウトリーチは4カ所延期した。
- ・東与賀文化ホールの文化事業は、主催事業1企画とワークショップ1企画を実施し入場者数は229人。主催事業は3企画延期、ワークショップは1企画延期した。
- ・文化会館も東与賀文化ホールも下半期に向け、延期事業の開催準備を行った。
- ・東与賀文化ホールでは、(一財)地域創造の助成を受け、幼稚園と高校の芸術コースへのアウトリーチを実施した。
- ・文化会館では、地元のオーケストラメンバーを起用して親子の楽器体験を実施し、音楽の楽しさを味わってもらった。

3) 財務に関すること

- ・利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症の影響で文化会館14,413千円、東与賀文化ホール804千円、それぞれ目標の13.41%、14.92%で目標に達していない。
- ・公演の延期や広い会場への変更を提案して、入場者数・稼働率減少を抑えた。
- ・オフィシャルパートナーは昨年に引き続き11社であった。
- ・東与賀文化ホールは、(一財)地域創造の助成を受けて中野翔太ピアノリサイタルとアウトリーチを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による利用料金減少に対して、中小企業庁の持続化給付金を受給、文化庁の文化施設の感染症対策事業補助金を受給予定。
- ・適切な空調管理で電気の使用量を減らし、経費節減に努めた。

(2) 質疑応答(概要)

- 委員 新型コロナウイルス感染症は運営に大きく影響している。消毒液、サーモグラフィーなどコロナがなかったらいらぬ経費もあるのではないかな。
- 委員 事業を延期、中止されているが、その際の問題、課題はあるか。例えば年度内で事業を延期できればいいが、年度内での延期ができない場合、どのように対応するか。
- 財団 今回中止した事業は、観客数も売り上げも上がる事業ばかりだった。今回の中止は相当数東京からのもので、年度内に呼ぶのは難しい。中止では止まってしまうので、できるだけ延期の方向で働きかけるようにしている。
- 委員 貸館について、例えば来年度に延期した場合、希望する日にちを選べるのか、または改めて申し込んでもらうのか。
- 財団 基本的には希望される月の1年前の1日が一斉申し込みの日なので、その日に来ていただいて延期の再申請をお願いしている。
- 委員 申し込んだ方から、また抽選になるのかとの不都合の声はないか。
- 財団 今のところない。延期されたとしても1年以内の延期で、1年以上先の延期は今のところない。
- 財団 1年以上先の予約は抽選かというご意見もあるかもしれないが、今のところ出ていない。コロナ禍の中であり、ゼロからのスタートにした方がすっきりすると思う。
- 委員 一つ優遇すると説明が必要かもしれない。今は1年前の受付はどんな状態か。
- 財団 例年通りの受付数はきている。ただ、第3波が来ておりこの先の受付はわからない。申し込み済みの方が、延期、中止されることも考えられる。
- 財団 通常ならキャンセルで空いたところに予約が入るが、それがなく相当きつい。コロナへの不安感があるので、何ヶ月か先の催しもキャンセルが増えている。
- 委員 やる側からすると、ひよっとしたらがあるからきつい。
- 委員 座席の指定やチケットの販売は、主催者が自分たちで決めるのか。
- 財団 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室より各都道府県知事等宛に発出された「11月末までの催物の開催制限等について」の事務連絡では、9月中旬から11月末までは収容人員を100%に戻していいとしているが、文化会館は、収容人員の50%を守っていただきたいと言っている。席の取り方もできるだけ1列全部横並びで次を空けるのではなくて、Vの字にする、目の前に人がいないという座り方をして頂きたいというお願いをしている。
- 委員 客席が半分になるので、使用料も半分にしてくれと言われぬか。何もなかったら1,800人お客を入れられるのに、文化会館の要請で900人しか入れられなかった。その損害はどうしてくれるのかという言う人がいるのではないかと思うが。
- 財団 基本的には客席を半分にする前提でやるかやらないかを判断されるので、そのような方はおられなかった。ある学校の発表会を本来1,800席使えば1回で終わるのを客席の制限で2回に分けざるをえなかった。その事業はぜひともやりたいという希望があった。佐賀市の文化芸術活動支援事業により施設利用料等に対する支援があったため開催できたことはあった。
- 委員 コロナで事業が中止になり、事業をされていないから評価についてよくわからないところがある。コロナの評価をしているのか、事業の評価をしているのかがよくわからない。
- 委員 通常なら自己評価はA評価にならない。それとは別の評価の仕方をする。コロナ禍に

どうあったかの評価の仕方をしないといけないのかなど。

委員 利用料金の減少分と経費の分を差し引いて、赤字が出れば佐賀市で補填することになるだろうが、そうなったときに私たちがどう評価していいのか。

財団 利用料金が入ってきていないので、相当厳しい状況。指定管理料は利用料金を前提に計算されていて、今回約 6,000 万円赤字になっている。

委員 国の方針でやめなさいだったでしょう。

財団 緊急事態宣言が終わっても、厳しい状況は続いている。利用者の不安感が相当強いと思う。

委員 自己評価は、今まで通りで実績の数字・データだけですれば A 評価にならないが、コロナ禍の中でやったことを評価して、総評価的に文章でコロナの終息が思うに任せない状況を添付しておけばいいのではないかと。普通の評価ですと、達成率 8%、10% ならば A 評価にならない。でも今回延期とか色々な対策をしたことを含めた評価にして、総論ではないが実績の表を添付しながら、かつてない経験の中でそうなっているとしたらどうか。

委員 今までこういうことを経験していないから総合評価しかないかもしれない。

委員 基本的にはコロナ禍で事業ができていなかったけど、一生懸命頑張っていたという言い方しかできない。

委員 よほど悪意がない限りはしかたないと思うのではないかと。

委員 委員の評価は、通常の評価の仕方では今回評価した方がいいのか。

文化振興課長 今までの評価の仕方では評価しにくいと思う。まずは目標値がある活動や量が図れる活動について、一旦は量の評価をするしかない。今後につながる取り組みで評価できるものや、こういう状況下だがもう少し努力が必要なものについてコメントを残していただいて、そのコメントを以って、総合的に評価をしていただくやり方がいいと思う。定性的な評価で、たくさんコメントをつけて頂いて、その中で総合評価をしていただきたい。今回はそういう評価をしていただけないか。

委員 今回は文章をつけて総合的に評価するということか。

文化振興課長 はい。評価項目があるので、ある程度項目に沿ったコメントをいただければ。全て埋めていただく必要はなく、トピック的にいくつか選んでいただいてもかまわない。

(3) 採点 (4) 集計 (5) 総合評価

委員 今まで通りではだめだと思う。例えば、今まで通りに音楽会や芝居をやればいいのか。それもだめではないかと思う。新しいのができるのか、ここ 1、2 年考えるしかない。

委員 県がオンラインで文化団体がする催しについてお金を出した（佐賀県「文化芸術祭 “LiveS Beyond”」）。あれはどうか。

委員 こういう状態だからこそ文化団体は頑張るしかない。それが文化の本来の在り方だと思う。国、県、市がお金をやったら、文化団体はだめになる。

委員 オンライン配信というのはどんなことに使うのか。オンラインが進めば失業者が出て、経済活動がだめになってしまうのではないかと。

委員 人間が活着ているというのは、人間と人間のつながりだが、それを機械の中に入れて悪くはないが、そこだけに頼るといのはよくない。そのために文化会館がある。文

化会館はみんな集めて一緒にやりましょうというところ。

委員 演劇をする人も観客がいないと面白くないだろう。演劇は客を少なくしてもやるべきと思う。

委員 人数制限してでも舞台をやる。そういうことでいいのか。

委員 早急に答えは出てこないと思う。有史以来、今のかたちができた。コロナがあってもそう簡単に変わるものではない。

委員 文化はなんでもかんでも新しく近代的にというわけにはいかない。

委員 ものをクリエイイトする人間が一生懸命考えないといけない。

委員 文化会館に規模の小さいものを受け入れていくのは難しいか。例えば 10 人、20 人ぐらいが集まってする催しものに文化会館を使えるか。

財団 使える。

委員 小さい活動をされている方がたくさんおられるので、仲間内だけの発表を文化会館で受け入れたらどうか。そういう場所を探されている方はいらっしゃると思う。

委員 文化会館の大ホールは商業ベースで考えているので、つらいところがあると思う。今言われたようなことがあるなら、やっている側からの働きかけが必要だと思う。文化会館に求めることもあると思うが、やっている側が文化会館は何もしてくれないと思ったら何もならない。やっている側にどうしてもやりたいという気持ちがないことには文化はできない。それをいかに手助けするかが文化会館や行政の役割ではないか。

委員 オンライン、デジタル化は抵抗を感じるし、納得できないが、社会のコミュニティに影響、寄生するものとして出てくる。それを拒否するというのもどうか。

委員 文化の見方なんかも、確かに歌舞伎座に行つてつばがかかったというかぶりつきが良かった時代から、ひよっとしたら画面で見ても、会場で見ても感動を同じようにする人種が出てきたりする可能性だってある。

委員 昔々神社の芝居小屋を見ていたのが、映画でも感動するようになり、色々変わってくるのかなと思う。

委員 演劇をするのに入場者は半分だから厳しい。それを配信して収入をあげるのは新しい方式。会館側はそういったことも含めて受け入れられるように、設備代とか色々考えて、新しい時代に対応するアイデアを出していかないといけない。

委員 コロナだったから余計に売れるということもある。今までお客さんとして見ていなかった人がネットで見て買われることもある。そういう時代になるのかなと。

委員 考古学から現代を見ると、石器の発明から鉄器になる。そこには相当な人間の意識の変化がある。コミュニティの在り方が変わっている。

委員 舞台がなくなって全部がオンラインになる話ではなく今をしのぐ方法のひとつ。0 か 100 かという話ではなく、生で聴く音楽があって、人を集めて生で届けるのが難しいので苦肉の策としてのオンライン配信だと思う。生の音楽をこれからも続けるために新しいものを取り入れるという考え方なら、どんどん工夫をした方がいいと思う。

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		150	116	77.3	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	50	40	80.0	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	50	36	72.0	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	50	40	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実をもっとアピールしてもらいたい。 ・コロナ禍の中で、日程変更への誘導等による利用者の確保を図る等努力が見られる。 				
2) 文化事業に関すること		200	140	70.0	B
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	50	30	60.0	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	50	32	64.0	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	50	38	76.0	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	50	40	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を皆が忘れてしまわないよう、何か新しい、今しかできないような、文化が必要不可欠だと伝える催しをやって欲しい。配信など工夫して開催は可能だと思う。 ・プロのピアニストから直接指導を受ける機会のように、少人数でできることを地道に今はやっていくことが大切だと思う。 ・入場者の増加はこれからも望めないで、何かアイデアを。 ・コロナ禍の中で努力されている。ワークショップ、アウトリーチは厳しい中とは思いますが、今後の事業の為に継続して欲しい。 				
3) 財務に関すること		150	106	70.7	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	50	38	76.0	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	50	34	68.0	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	50	34	68.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・安定して事業ができるようにパートナー企業の増加に努力すること。 ・稼働率向上のために、さらなる努力を。 ・コロナによる経費増が考えられるため、経営に対する意識をさらに高めて欲しい。 				
◆総合		500	362	72.4	B
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和元年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響でこれまでの数値目標を前提に評価はできない。したがって、そういう中での振興財団の努力を評価した。 ・事業の延期等を依頼しながらの事業運営 			<ul style="list-style-type: none"> ・今後1～2年、新型コロナは続くと思われるので、新生活に対応するよう事業計画を見直し、それに基づく数値目標を設定すべきではないか。 ・オンライン・デジタル化・感染対策など。 ・大きなイベントができない分、これまで一緒に何かをやることがなかった人たちと小さなイベントをたくさんやるのはどうか。 ・アフターコロナ、ウィズコロナ下での文化事業の在り方を真剣に考えておく必要がある。 ・コロナ禍で自主事業等の実施が厳しいと思われるが、感染防止策等を講じながら実施に向けて努力されたい。 		